

第5回歯科技工士の養成・確保に関する検討会	参考 資料 1-3
平成31年1月17日	
第4回歯科技工士の養成・確保に関する検討会	資料 3-3
平成30年11月19日	

平成30年11月19日

第4回歯科技工士の養成・確保 に関する検討会

株式会社 ナンゴウヤデンタルラボラトリー
代表取締役 南郷谷 亨

- 企業名
株式会社ナンゴウヤデンタルラボラトリー
- 創業
昭和12年 大阪府東大阪市
- 法人設立
昭和55年11月
- 資本金
1,000万円
- 従業員
従業員20名（男性歯科技工士11名，女性歯科技工士4人
営業3名、事務2名）
- 加盟団体
社団法人日本歯科技工士会
社団法人日本歯科技工所協会
日本臨床歯科補綴学会
東大阪商工会議所



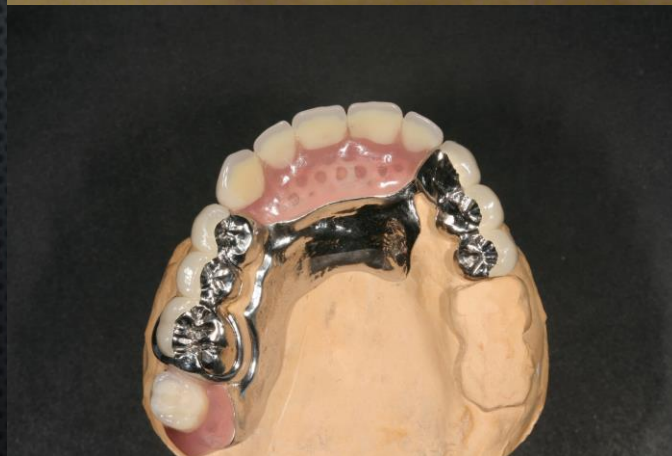
- 40年ほど前は保険技工が中心
- 保険デンチャー、保険ク라운
- メタルボンド、金属床を制作開始
- 長時間労働 技工士がない
- 価格競争が激化し始める 新規参入



労働環境を整える

- 雇用契約書を交わす → 労使間のトラブル回避
- 給与形態の改善 → 作業ポイント制導入し給与に反映
- 残業時間の減少 → 1日の仕事の作業計画を立てる
- 仕事の効率化 → セミ分業制、CAD/CAM導入
- 有給休暇の消化 → GW.夏季休暇.年末年始、の前後
に休める様な 雰囲気づくり
- 仕事場の衛生環境の改善 → 快適、安全な職場

- メタルボンドポーセレン
- ジルコニアクラウン、インレー
- セラミッククラウン、インレー
- インプラント
- メタルプレート
- ノンクラスプデンチャー
- 保険クラウン
- 保険デンチャー
- 口腔内スキャナーに対応





平成26年診療報酬改定によるC A D / C A Mでの小臼歯の製作が可能になりデジタル技工が加速する

当社でもスキャナーのみ導入していたがこれを機会に加工機を導入

その後も積極的にスキャナー、加工機を導入

3Dプリンターを導入してデンチャーの維持装置の製作に取り組む

技工業界全体が変革期を迎えている時代である

CAD/CAM技工に移行中



CAD/CAM技工に移行中





デジタル技工へのメリット

- デジタル技工でしかできない補綴物の製作が可能になる
（ジルコニア、チタン加工、PEEK材）
- 手作業労働工程が一部分機械化される。
- 保険のCAD／CAM冠をはじめ、ジルコニア技工等の内製化することで従業員がデジタル化により技工に対する士気が高まる
- デジタル化による石膏、ワックス、その他、消耗材が減少。
- 補綴物の精度が上昇（人的作業格差が減少）

デジタル技工の問題点

- 購入金額及び維持費（メンテナンス）が高額
- デザインの操作を使いこなせるようになるまでに時間が必要。今でさえ忙しいのに費やす時間が無い
- 導入しても決して技工が楽になるものではなく、手作業技工がまだまだ残る、デザインの修正、加工物の適合、コンタクト調整、咬合調整等
- 現在の技術ではまだまだ自動化には程遠い

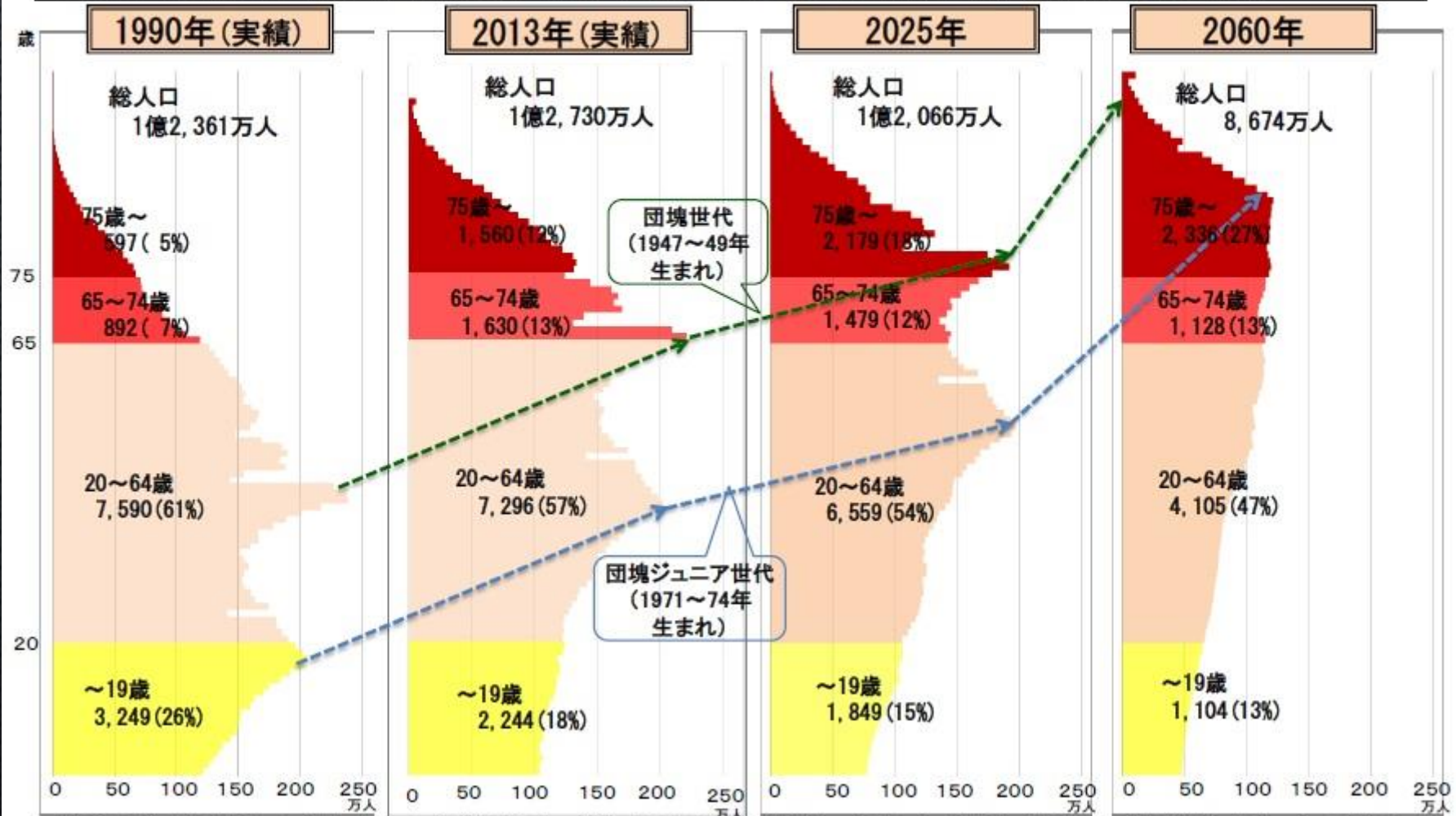
デジタル技工への期待

- 今後さらなる保険のCAD/CAM冠の適用範囲（前歯、上顎大臼歯）が拡大することで、前装冠、FMC等の従来の手作業からの技工が減り、作業工程の効率化がみこまれる
- 加工機でしか加工できない新材料の保険採用により、ブリッジへの応用も可能と考えられる
- クラウン関係だけでなくデンチャー関係にも3Dプリンタ等の活用で時間短縮や精度向上をめざす

日本の人口ピラミッドの変化

○団塊の世代が全て75歳となる2025年には、75歳以上が全人口の18%となる。

○2060年には、人口は8,674万人にまで減少するが、一方で、65歳以上は全人口の約40%となる。



(出所) 総務省「国勢調査」及び「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計):出生中位・死亡中位推計」(各年10月1日現在人口)

歯科技工士＝絶滅危惧種

長年にわたる低賃金、長時間労働が原因である

歯科技工士を魅力のある職業にしていく
対策

経済問題改善

（適正な技工料金）

労働環境改善

（長時間労働）

- ・ 離職者の歯止め、又は離職者の再雇用
- ・ 女性技工士の働きやすい職場環境（労働時間）
- ・ 歯科技工士法規制の緩和（設備構造基準等の規制緩和）

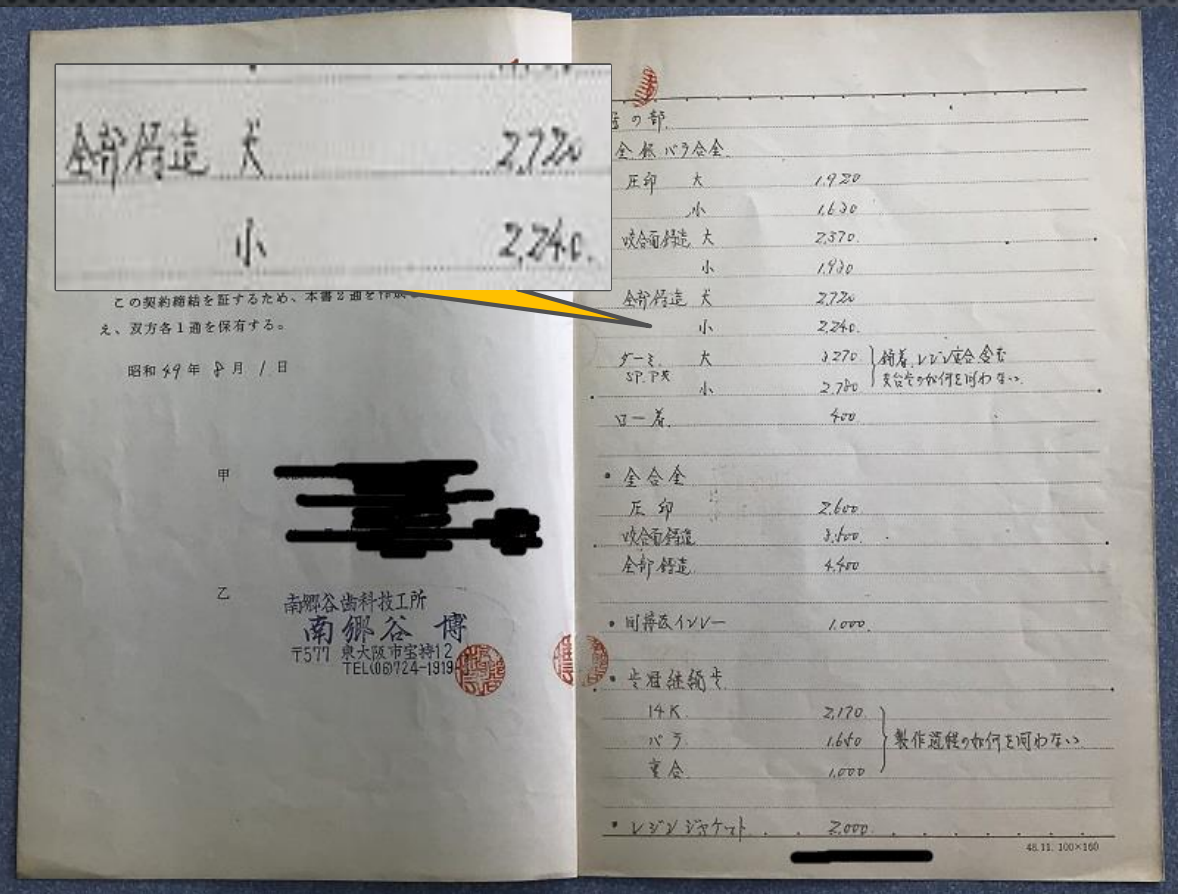
技工士を取り巻く環境



歯科技工士も自分自身の職業の為に今一度、襟を正し、行政、歯科医師会、歯科技工士会、全技協、などの団体と真剣に諸問題を考えなければならない。技工士の平均年齢が50歳を超えた今、すぐ取り組まないと5年後、10年後は現在より歯科技工士就労者数は激減すると考えられる

昭和49年 1974年

昭和49年 全部鑄造冠 140点
平成30年 全部金属冠 454点 約3.2倍



	昭和49年	平成30年
大卒初任給（公務員）	80.500円	210400円
高卒初任給（公務員）	66.000円	147100円
牛乳	46円	150円
かけそば	200円	500円
ラーメン	220円	700円
喫茶店（コーヒー）	230円	700円
銭湯	100円	460円
週刊誌	150円	460円
新聞購読料	1.700円	4037円
映画館	1.000円	1.800円

◆ 昭和49年

- ✓ 金属の品質のばらつき
- ✓ 埋没材の性能
- ✓ 鑄造機の性能
- ✓ 電気炉の性能
- ✓ エンジンの性能
- ✓ 研磨機材品質
- ✓ 技工士人材不足
- ✓ 圧印冠が主流



価格アップ
製作時間
材料コスト
失敗

◆ 現在

- ✓ 金属、埋没材、
鑄造機、電気炉、
エンジン、
研磨機材等
性能向上



価格ダウン
コストを度
外ししての
価格競争

ご清聴ありがとうございました